

各職員に転送または、配布をお願いします。

目次

[最新情報]

地域再生実践塾

[募集します!]

政策情報誌「Think-ing」投稿募集
e シンキング投稿募集

[政策研究の紹介]

研究報告書の紹介 (「プロジェクト taX」(H14))

[私の選んだこの 1 冊]

大事なことだけを考える技術 鷲田 小彌太 著 / ダイヤモンド社

[みてきたゾウ・つたえるゾウ!!]

すてっぷあっぷ講座「市場化テスト」

The 19th Pacific Regional Conference Tokyo Meeting

[最新情報]

地域再生実践塾

総務省では、平成 17 年度地方行財政重点施策のなかで、「地域再生の推進」を掲げており、「地域再生の担い手づくりを推進するため、地場産業の振興、観光振興、地域のブランドづくりなどをテーマに、成功のノウハウを習得する取組を進めるとともに、具体的・実務的ノウハウ等を有する人材等の確保、活用を促進」することとなっています。

その取組として、全国各地の地域再生の担い手づくりを推進するため、(財)地域活性化センターが総務省はじめ開催地等の協力のもと実施するのが、「地域再生実践塾」です。

グリーンツーリズム、コミュニティ・ビジネス、跡地利活用など様々な事例

をテーマに、具体的かつ実務的なノウハウの習得を企図し、今年度は全国5か所で実施されます。

「地域再生実践塾」は、各地のテーマに精通した活動経験豊かな主任講師の講義やグループワークを中心に行われます。さらに、特別講師として地元の方から、苦労ばなしや体験談など現地に赴いて初めて聞けるお話しと地域再生の舞台となった現地の調査も盛り込み、実践的で充実した内容の3日間で構成されています。

10月3日からは、第3回目として、「公共施設跡地の利活用～“民藝創造によるまちづくり”～」をテーマに、入間市の文化施設「文化創造アトリエアミーゴ」で開催されます。

この施設は、県繊維工業試験場の閉鎖後、その建物を利用して、市民参加で文化創造地へと変えた地域再生実践事例です。現在は、市民の芸術文化活動、繊維産業の紹介、市民の憩いの場として活用され、施設利用・運営は市民主体で行われています。

第3回：入間市（10/3～5 公共施設跡地の利活用）、第4回：長野市（11/9～11 地域に残された都市資源の活用）、第5回：愛媛県内子町（11/30～12/2 伝統的建造物群）は申込み可能とのことです。地域再生・地域活性化に興味のある方は、お申し込みください。3日間参加していただくことが基本となりますが、部分参加も可能なようです。（とほほ）

開催案内・申込書

<http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/jcrd/b.html#tokusan>

[募集します！]

政策情報誌「Think-ing」投稿募集

自治人材開発センターでは、職員の政策立案に対する意識を高めるとともに、政策形成能力の向上を図ることを目的として、政策情報誌「Think-ing」を発行しています。次号は平成18年2月頃発行予定です。

そこで、構成団体の職員の方から下記の投稿を募集中しています。

どうぞ、ご応募ください。

・自由論文

広く自治体が抱える課題をテーマに、4,000～6,000字程度で論じてください。

・政策提案

独創性に富む先進的な政策提案を 1,000 字程度で。

・コラム

地方自治のキーワード（下記リンク参照）から、一つを選んで、あなたの提案や意見を気軽に投稿してください。（400字前後）

自由論文・政策提案・コラムの募集については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/07/appli/thesis.htm>

・事例・取組紹介

「これまでの施策に改善を加えた事例・取組」「特徴的事例・取組」「先進的事例・取組」など、自治体の施策に関する事例・取組をご紹介ください。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/07/appli/exam.htm>

・政策研究

庁内での研究グループでの研究や各課所室等で行っている（企画している）事業に関する研究

・自主研究

有志等により行っている行政に関する研究

政策研究・自主研究の募集については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/07/appli/res.htm>

e シンキング投稿募集

e シンキングでは、自発的研究グループ等の研究紹介、講演会等の案内・レポート、研究誌等の発行、政策関係の書籍レビューなど、政策情報に関する投稿をお待ちしています。

「これは、e シンキングの記事になるかな」ということがありましたら、自治人材開発センター - 政策研究部までお問い合わせください。

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

E-Mail: seisaku03@hitozukuri.or.jp

[政策研究の紹介]

研究報告書の紹介

「プロジェクト taX」(H14)

分権時代の新税のあり方として、住民の納得が得られるための税とは、執行される事業とその財源の税収を結びつけて考えなければならないのではとの考えに基づき、政策目的実現のための税という観点から、「政策税務」というコ

ンセプトを提唱している。

http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/H14/h14sum_tax.htm

平成12年度～16年度の研究報告書については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/kyodokenkyu.top.htm>

[私の選んだこの1冊]

大事なことだけを考える技術 鷲田 小彌太 著 / ダイヤモンド社

少し仕事に行き詰まりを感じたので、タイトルに引かれて、この本を手に入りました。

タイトルどおり「大事なことだけを考える技術」があれば仕事もスムーズに進捗するのではないかと思います。この本を開いてみると、カバーの折り返しの表紙裏に「大事なことだけ考えれば、何でもスピードアップできる」と記されています。

期待しつつ頁をめくると、7章から成る、この本は、的確に表現されていた見出しで始まる3頁～4頁程度の短文と、その文章の終わりに示される枠囲いのポイントの集まりで構成されています。自分の興味のある見出しから読めば何となく内容の掴めそうな雰囲気を感じ出しています。

仕事に役立てるという観点から読むと、第1章が役立ちそうです。「大事なものの順序は常に変わっていく」「自分を大事にするために自分以外の人を大事にしよう」「人間関係を大事にすると、いい仕事ができる」等など何処かで聞いたことのあるようなフレーズが並んでいます。著者の経験に基づいた説明と最後に示されるポイントによって不思議と納得してしまいます。

3章に読み進んでゆくと、「正しく質問できれば、正しい答えが見つかる」との指摘があります。「正しく問題を立てることができる質問力のある人だけ、正しい解決法がやってくる」ことだそうです。また、決まった時間で可能な限り、いい仕事をするには、マニュアルを活用すること、またゴール（解答）をはっきり決めて切り口を定めることが重要だと教えてくれます。

最後に冒頭の「大事なことだけ考えれば、何でもスピードアップできる」の見出しの文章が記されています。「大事なことだけを考える」というのは、大事なことを判断する能力を養うことであり、「大事なこと」の発見を日々かさねてゆくことが大切であると教えてくれます。そして、「大事なことは」状況により遷り変り、去来するものであり、それを受け取り、手放してゆくのが自然であると結んでいます。

読み終えて、一つの人生訓を与えてくれる書ではないかと思いました。本書の中には、この様な言葉もあります。「先が見えないのは当たり前。不安があってもいいのだ。当然なのだ」と。(K)

[みてきたゾウ・つたえるゾウ！！]

平成17年度第1回行政課題研究会(すてっぷあっぷ講座)

「市場化テスト」～新しい行政手法への試み～(自治人材開発センター主催)
(平成17年8月12日(金)午後1時30分～4時30分 川口総合文化センター・リア)

小泉改革と言えは真っ先に思い浮かぶのは郵政民営化ですが、骨太の方針2005に掲げられる「市場化テスト」も小泉改革と歩調を合わせ進められてきており、お役所仕事改革の切り札的存在です。その手法は行政の仕事を市場に出し、民間企業と行政が官民競争入札というかたちで競争し、その担い手を決めてゆくやり方です。今までは、行政が民間に仕事を発注するという縦の関係でしたが、市場化テストは行政と民間が同じ土俵に立ち、対等な横の関係で競い合う性質を有し、行政自体が市場競争にさらされる点において、今までの制度と画期的に異なります。私たち行政に携わる者には少なからず影響のあるものではないでしょうか。その市場化テストがテーマということで、興味津々で参加しました。

今回の講師は、市場化テストについて検討している、規制改革・民間開放推進会議専門委員の美原融氏と内閣府市場化テスト推進室の井上博雄氏でした。

実は、小泉改革が頓挫すれば、市場化テストも無くなるのではないかと考えていましたが、講演会の冒頭に、美原講師から明確な答えが示されました。「政権の行方にかかわらず、これからの公共のあり方、官と民の役割分担や協働の視点から考えた場合、規制改革・民間開放の流れは止まることはないだろう。そして、この流れの中で大きな役割を果たす市場化テストも同様である。」

井上氏からは現在の改革の流れには、クローズアップされている「官から民へ」という流れの他に「国から地方へ」というものがあるとの指摘もありました。

国は、地方に先行しモデル事業を実施するという方針が規制改革・民間開放推進3か年計画に盛り込まれ、今年度からハローワークや年金等の分野でモデル事業が開始されているそうです。また、来年度には法制度化し本格的に導入される予定とのこと。この様子だと、地方にも近い将来制度導入の波が押し寄

せてきそうです。今のうちに、よく研究し市場化テストの長所と短所をよく理解し対応を考えておく必要があるのではないかと痛感しました。(K)

The 19th Pacific Regional Conference Tokyo Meeting

(The Pacific Regional Science Conference Organization of the RSAI 主催)

(平成17年7月25日(月)~28日(木) 日本大学経済学部)

この大会は、「地域(region)を研究対象にする経験的あるいは実証的な諸学問分野が集合した総合的科学」である「地域科学(Regional Science)」を対象領域とした環太平洋の各国の学会で構成される国際機構の主催でした。日本では、専門分野ごとの学会が多い中で、学際的で、学問的な色彩が強く、この大会にも様々な分野の大学教授が参加していました。

今回、大学時代の恩師の薦めがあり、7月25日から28日までの3日間、英語(!)での論文発表会に休暇をとって参加してきました。

大会自体は日本で行われたのですが、国際大会のため英語での発表で、日本人だけでなく、学会に所属する海外の大学教授なども発表していました。日ごろ英語にふれる機会が少なかったこともあり、発表内容を聞き取することに苦労しました。英語を話す、聞く等の機会は自治体の職員をしているとなかなかありませんが、そういう状況はいきなり生じるのだということを実感しました。

さて、この大会は、テーマ毎に分かれての同時進行で複数の会場での発表となっていたので、「Quality of Urban Life(都市生活の質)」、「Planning Theory(計画理論)」などのテーマについての発表を聞いてきました。これらの発表全体では「sustainability(持続可能性)」がキーワードとなっていた。

「sustainability(持続可能性)」については、日本では、持続可能性は経済発展などの特定の領域で使われることが多くなっています。しかし、今回の大会では、「現在の都市生活の質の『持続可能性』」や「インフラの整備を『持続的』に行う」、「環境への影響やエネルギー消費を最適化する『持続可能な』自動車の走行速度」のように幅広く使われていました。「sustainability(持続可能性)」は、「ある分野の改善を図るためにその条件を変更しても、全ての分野の現在の状況を維持する(可能であれば、他の条件・分野も改善する)」という意味で使われており、特に海外では、この「sustainability(持続可能性)」の基準を満たしているかどうかという視点で計画等を実施するかどうかの判断をしているとの報告がありました。自治体においても予算制約が厳しくなり「二兎を追う」施策が求められる中で、参考とすべき考え方であると感じました。(持木)

[編集後記]

“ 劇場型選挙 ” などと言われ、かつてない国民の関心を集めた衆議院議員総選挙。本県の投票率（小選挙区）も 64.88% と、前回に比べ約 10 ポイントアップした。今回の選挙では、連日、報道媒体を通して「改革」や「政策」という言葉を目や耳にした。さて、自治体の政策に対する住民の理解と関心は十分だろうか。民間の感覚を取り入れた行政経営の必要性が問われる今日、我々自治体職員には、今まで以上に政策を住民にアピールする姿勢が求められている。ましてや民意からかけ離れた政策であってはならない。そんなことを改めて考えさせられる選挙だった。（ I S O ）

[e シンキング]

ご意見・掲載希望

[政策研究の紹介] [私の選んだこの 1 冊] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記まで、御連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合

自治人材開発センター 政策研究担当（石田、江森）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町 2 - 2 4 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: seisaku03@hitozukuri.or.jp